

## 全国学校栄養士協議会会長賞

### 『献立の無い給食』

福島県南相馬市立原町第二小学校 六年 男子 渡邊 悠正

あれは、もう五年も前の事ですが、今でもはっきり覚えています。ピカピカの一年生、小学校入学に友達たくさん出来るかな。おいしい給食を楽しくみんなで食べれるかな。と小学校での楽しい事をいろいろ考えていました。

でも、東日本大震災と原発事故の影響で、自分の学校では無い学校へ、バスで通いました。友達も少なく、一つの教室に三つの学校の一年生が集まって生活しました。外で遊ぶ事も制限され、水筒を持ってマスクを付けての学校生活は、一年生だったぼくには、とても不思議でした。あの頃は、家での食事は、お母さんが少ない材料でいろいろ考えて、作ってくれていました。少ない材料だったのは、スーパーやお店が少ししか開いていても品薄で買える量が決まっていたからでした。

ぼくは、食べる事が好きな、食いしん坊なので、小学校の給食をととても楽しみにしていました。(どんなにスーパーがやっていなくても給食はきつと温ったかくて、ご飯、みそ汁やおかずなんかが出るんだろうなあ。)と思っていました。でもそんなぼくの期待はハズレました。初めての給食は小さな塩おむすびが一つでした。でも、そんな小さな塩おむすびでも、友達と大好きな先生と一緒に食べるのは、とっても美味しかったのを覚えています。

それに、日に日に支援物資が届き始め、給食も少しずつこうかになっていったのも覚えていきます。こうかと言っても、今の様な給食ではなく、塩おむすびとアスパラガスが一本や塩おむすびと豆腐もろこし一本などでしたが、毎日、ぼく達の為におむすびをにぎってくれる調理員さんの思いや、全国からぼく達を心配して、支援物資を送ってくれる方々の思いが、たくさん詰まっている給食でした。

震災は、ぼくにとっては、すい〜く〜らい思い出ですが、毎日、何が出るか分からない、献立の無い給食は、みんなの愛情が感じられる美味しい給食でした。そんな愛情たっぷりの給食の味を忘れず、食べ物のおりがたみを感じながら、食事をしていこうと思います。こんな風に感じられる事が出来たのも、一年生の時の献立の無い給食のおかげだと思います。